

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200324	事業の開始年月日	平成16年6月3日
		指定年月日	平成16年6月1日
法人名	特定非営利活動法人グリーンハウスえがお		
事業所名	グループホームえがお		
所在地	(243-0426) 神奈川県海老名市門沢橋4-1-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和1年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年5月1日

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、4年ぶりに利用者の移動があり、介護の原点である『嫌なことはしない』『否定しない』『待つ』ことの重要性を実感することができました。朝起きない、失禁しても更衣に拒否が強い、電気のコードが気になると引っ張ったり丸めたり、お茶を飲んでるのにテーブルの上が気になり片づけ始める等々。そこで制止すると混乱して余計に落ち着かなくなる。この現状に本人が満足(納得)するまで待つ。無理に起こさないで本人が起きてくるのを待つ。汚れても取り替えないならその時が来るまで待つ。等々の対応をすることで今では、自ら『汚したの』と教えてくれたり、『トイレに行きたい』と教えたりと職員を信頼してくれてる事が伝わってきます。待つことは、根気のいる作業ですが今の穏やかな様子を見るにつけ介護の原点である『待つ』ことの重要性を実感しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年1月28日	評価機関 評価決定日	令和2年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR相模原線の「門沢橋」駅下車、徒歩1分の、駅から見えるオレンジ色の2階建て1ユニットのグループホームです。車では、圏央道海老名インターより海老名運動公園方面へ7分、門沢橋駅前を右折した所にあります。
<優れている点>
事業所の「明るい笑顔こそ最高の良薬」をモットーとし、笑い声の絶えないグループホームです。ミーティング時に、職員全員で、利用者個々のケースを取り上げて現状を確認し、対応法について意見交換を行い、共有を図っています。外部への研修システム化と研修後の二次研修も行っています。年に一度、敬老の日に「えがおの集い」で、管理者から利用者全員に渡される「感謝状」は素晴らしく、心がこもっています。利用者に寄り添って関わっていなければ書くことの出来ない文章で、関わり方の重要性を感じる事が出来ます。利用者は、自宅で生活している様に、掃除し、洗濯物を干し、洗い物や湯茶出しを当たり前に行い、職員は温かく見守っています。
<工夫点>
毎朝、利用者と職員はラジオ体操で体を動かしています。雨の日以外は、ほぼ毎日、全員で近隣に散歩に出かけています。車いすの利用者を、元気な利用者が押して散歩しています。階段を利用して足を鍛えている為、昨年、台風で河川決壊の恐れからの「避難指示」が発令された時も、避難所への移動がスムーズに出来ています。

そのためにも一人一人を大事にし理解しどう信頼関係を築いていくか確認しあってる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームえがお
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	年度初めのミーティング時に、利用者に対してどんな目標を掲げてどう関わったか等を自己分析し、一人一人発表し合う。そこから見えてくる利用者への関わり等について意見交換する。そして事業所理念の一つ一つの内容、意味を確認することで今年度に向けての利用者への関わりの方角性を目標に挙げて取り組んでいます。	理念は、事業所の2階のリビングルームに掲示してあり、理念を意識して実践に繋げています。事業所の運営理念は「人権の尊重」「各人が役割を持つ」「家庭的な雰囲気」で、モットーは「明るい笑顔こそ最高の良薬」です。理念通り、利用者も職員も笑顔で、笑い声の絶えない事業所となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月行ってる健康体操、ウクレレ演奏等の催しは、回を重ねるごとに地域の方との距離が近くなり、今年度は、花見、夏祭り、バザーの時のボランティアでの参加等々行事にも参加して下さるなど地域との交流の場が広がってきてる事は、本当に嬉しい限りである。	月2回健康体操を行っています。自治会にも加入しており、市民音楽祭にも利用者全員でステージに立ち、合唱を披露しています。毎日の散歩で近隣住民と触れあい、野菜をもらったりしています。市民祭りやビアガーデンなどでも地域の人と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度の市民音楽祭は、三味線伴奏の民謡から初めての試みであるウクレレ演奏でハワイアン風の曲での参加は、また違った意味での感動がありました。合唱を聞いたと見知らぬ方から写真と『感動した』とのお手紙を頂いたことは、大きな喜びでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	9月の台風で河川決壊の恐れから『避難指示』が発令されコミセンに避難した事等を取り上げて意見交換を行いました。今後の課題、問題点についての話し合いで地域密着の意義を改めて感じています。	運営推進会議は、社会福祉協議会職員、地域支援包括センター職員、民生委員、海老名市職員、門沢橋自治会副会長、ボランティア、家族・利用者などが参加しています。事業所の活動報告をし、アドバイスをもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の方の利用もあることから、利用者の様子、行事等の取り組みの報告等の情報交換を実施しています。市職員から皆さん笑顔で元気ですねとの言葉を頂いています。	生活保護受給者の方もおり、生活支援課と連絡を取っています。海老名市ケアマネ連絡会や研修などにも参加し、連携しています。市役所の担当者が運営推進会議に参加しており、報告や相談をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は、人権擁護の観点から問題があるだけでなく高齢者の生活の質を根本から損なう危険性を有する事を理解しています。利用者の今置かれてる気持ちを常に考えることで、防犯上の施錠以外はないと考えてます。	日中、玄関の施錠はせず、夜間のみ防犯上施錠しています。毎日散歩も行っていますが、外に出たい要望には見守りに配慮しています。スピーチロックや、職員が何気なく行った利用者への行為で、気になる時はその場で注意を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	圧迫痕、打撲痕等はどうのように出来たのか確認し合い、介助する時の手の位置、転倒防止等の介護の仕方等の意見交換をしています。介護者側の介護ではなく利用者の状況を的確に把握しそれに沿った対応に心がけてます。必要以上の大声の声掛けは、利用者の不安をあおる事になる事からお互い注意してます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用され後見人さんが付いています。身の回りのことにとっても気遣いされています。日々の生活の中で、本人の様子からまた要望を確認し後見人さんに情報を伝達しています。それを受け本人を交えて話し合い確認して支援活用に生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者家族、本人の入所に対する不安、自責の念、葛藤等の思いをしっかりと受け止める事、受け入れる職員も今を取り巻く状況を共有認識し其の思いを大事にし自然な形で入所できるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎日一緒にお茶を飲みながら様子を観察します。何気ない会話の中から本人の想いを感じ取り本当の所何が言いたいのか隠れた思いを探ります。そして会話の内容から、その人が今いる時代が見え隠れします。その会話の内容を膨らませる事で懐かしい母親の想い、兄妹の想い、そして今後どうしたいかが顔を出すことがあります。	年1回、同一法人の事業所と合同で行っている家族会や、運営推進会議、面会時に職員と話し合っ確認しています。家族から、連絡は「メール」「ライン」などで行って欲しいとの要望には、難しい面もあるものの、今後、検討していく意向です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング等で意見交換をしています。必要に応じて個人面談を実施しています。	職員とは、月1回のミーティングで、職員の発言する機会を作り、意見や要望、提案を聞いています。内容を検討し、業務に生かしています。また、日常的にも個人別に報告・相談を受けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の定例会でお互いの情報交換をしています。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し職員の希望に添えるように事務方に進言しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティング時に、個人のケースを取り上げて現状を確認します。そして口の中が痛くて食が進まない方、傾いて歩行介助が難しくなってきた方等々の対応法について意見交換して共有認識を図ります。外部への研修システム化と研修後の二次研修も実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	12月に看取りを行ったことがある施設の方を招いての勉強会を行う予定です。初めての試みで利用者を巻き込んだ勉強会に今後のサービスの向上に繋げていける取り組みにしたいと考えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	誰も知る人がいない中に入る不安は相当の事であると考えます。好きな事、場所、人との交わり等を考慮しながら今までの生活習慣を大事にしながら気の合う利用者間との関係づくりと居場所づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所するにあたり、本人にとって本当にいいのかと自問自答され迷惑をかけるのではないかと利用を躊躇されていた家族が、生き生きとした顔つきに変わってみるみる元気になる様子が『ここに来て良かった』とお言葉をいただいた事に『えがお』の日常生活と役割分担等の取り組みを評価していただいたと思っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すぐ利用したいのか、今後利用したいのか、そもそもグループホームとは何なのか等等、相談内容を見極め本人が必要とする情報を提供したり支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎朝の掃除、洗濯、家事全般は、利用者と職員とで役割分担しながら一緒に行います。利用者一人一人がそれぞれの役割がある事で、自信に満ちた生き生きとした表情をみせてくれます。困ってる利用者にさりげなく手を差し伸べる様子を見るにつけ私たち職員が助けられていると実感する毎日です。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会で近くのコミセンに車で2往復して避難したことの報告をしたことに、家族の方が、『近くにいる弟を使って下さい』との申し出を受けた事に、その気持ちが嬉しくて家族との絆を感じた出来事でした。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が訪問されたら気兼ねなくくつろげる場所等の配慮をしています。長年信仰されていた仲間の方の訪問にはことのほか喜ばれています。昔の事は、良く覚えてて久しぶりに会話が弾みましたとの嬉しい報告がありました。手紙の中に訪問されたとき写真が同封されていたのでその写真を自室に飾りました。	入居前から長年親交していた仲間や知人、友人の来訪があります。家族と外食に出かける利用者や、2ヶ月に1回は馴染みの美容院に行き、髪をカットしている人、コンサートに行き、楽しんでいる人がいます。手紙や電話の支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方或いは、話しが合う方達の席が近くなるように配慮してます。場がもてない様子の利用者に対しては、仲間に入りやすいような雰囲気を職員同士で作っています。また共通の話題で全員が会話に参加出来るように配慮してます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病気の進行から利用継続が難しくなった利用者に対して相談、情報提供をすることで移行がスムーズに運ぶことができました。入院中に亡くなられた方のお別れに、馴染みの利用者と一緒にしてきました。生前の写真を見ながら思い出に浸ることができました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ある利用者の今一番気になる事は、正月をどこで過ごすかということ。お茶の時間等には、『みんな帰るのか』と聞いている。毎年誰一人として帰る人はいないのに一人だけ帰らないで職員に面倒掛けるのが心苦しいとの心配である。みんなで一緒にお雑煮を食べて、初詣に行こうと声かけるとホッとした表情を見るのがまた楽しい。	日頃の会話やアセスメントの時に利用者の思いや意向を把握しています。生活歴や家族の協力で把握する事もあります。意思表示の困難な利用者は表情や態度、目線で読み取るようにしています。利用者、一人ひとりに寄り添ってしっかり対応しています。表情が豊かになる介護を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時、本人、家族そして担当の介護支援専門員から、今までの経過等の細かい部分までの情報収集しその内容を職員間で共有、検討し新たな環境にスムーズには入れるような関係づくりを考慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子、言動の変化とその裏に隠された思い等々を個人記録に記録することで現状を把握しミーティング時に職員間で共有しています。そこで意見交換し介護サービスに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個人記録、日誌等から利用者のADL変化、解決すべき問題点、対応の仕方等等が見えてくる。それを月1回のミーティング時に問題点を一つ一つ検討し意見交換しながら介護計画に反映しています。	月1回のミーティングで、利用者の体調やADLの変化を検討し、意見交換をしながら介護計画を作成しています。本人及び家族の意見、医療情報が反映したケアプランとなっています。把握した意向を記録し、職員全員で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	身体機能等の変化に応じて、より本人の現状に添った対応であるか意見交換しながら対応法を検討し介護計画書の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期通院は、家族が行っているが緊急時等は、家族に確認しながら受診、送迎等の支援を行っています。緊急搬送された方が、より専門的な検査が必要となり、家族では対応しきれないとのことで同行の依頼があり無事に検査ができた事は、大いに感謝された出来事でした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎月の市の広報紙等から、参加できる物、参加したい情報を得ています。今年も、職員の家族の個展が銀座で開催されることを受け、利用者の方に声をかけると5名の方が『行きたい』との意向を受けて幾つもの電車を乗り換えて行ってきました。車中での多利用客とのやり取りが楽しかったです。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎回何か言われるのではないかとドキドキしている様子が伝わって来る高齢者に冗談を言い場を和ませたり等々して。其中で必要に応じて専門機関等への受診へ繋げる等の適切な医療が受けられる体制となっています。年1回受ける健康診断の結果もかかりつけ医に見ていただくことで安心できる体制となっています。	月に2回、嘱託医による訪問診療を利用者全員が受診しています。入居前から通院している専門の医療機関へ通院している利用者もおり、嘱託医からの情報や事業所での様子を伝えて情報を共有し、適切な医療が継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週見える訪問看護師には職員が案外見逃している事をキャッチし反対に気付きを教えて下さることがある等、相互の信頼関係が出来ています。気になる事を相談し、情報を伝え看護師から往診のDrに報告することで早い処置が受けれる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送で入院された際に発生状況、えがおでの普段の様子などの情報を伝え状況が許す限りえがおと同じような援助をお願いをしました。また帰れる条件などを双方で確認し早い早い退院に向けての協力をしています。特に入院の必要がない場合は今後のフォローをどうしたらよいか等の助言を頂きそのように動いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体機能の重度化してきている場合、随時家族に報告、或いは実際にホームに来て頂いて本人の様子を確認してもらい今後の対応について話し合っています。双方が確認した対応することで現在も歩く対応で日々利用者の頑張っている姿に感動をもらっています。	利用者と家族に参加してもらい、看取りについての勉強会を行いました。終末期の在り方について、きちんと向き合い、共に学び合う中で、それぞれが持つ不安を共有し、事業所としてすべきこと、できることを伝え、安心に繋げるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故或いは急病が発生した場合についてのマニュアルを作成し対応の確認が出来るようにしています。消防署から講師を依頼して応急手当の指導を受講しています。(年に1回恒例)が、毎年やっても忘れて居たり又新たな発見があり有意義な時間となっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	9月の台風19号の影響で『避難指示』が発令されコミセンに避難しました。大雨の中、利用者同士がお互い協力しながら避難できたことは、常日頃訓練してる成果が出たように思います。コミセンでの『何か手伝える事はないか』と地域の方に声をかけてもらった事、市職員等の気遣いに心温まることでありました。経験した中での課題等もあり訓練の仕方、職員の配置等にも確認事項が増えました。	昨年の避難指示時は、車で2回に分けて避難を行い、避難先では地域の方の協力もあり、落ち着いて過ごすことができています。利用者全員が無事に避難できたことは、職員の自信に繋がっています。避難方法や職員配置について新たな課題が明確化しています。	地域との協力体制をさらに構築していくために、地域の方に事業所の避難訓練に参加してもらったり、自治会で行う訓練に職員と入居者が参加するなど、避難の体験を生かした更なる取り組みも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の訴え、発する言葉に耳を傾け思いを受け止める対応をしています。発する言葉の裏に隠れてるものは何か、他利用者との関係性はどうなのか、今本人が置かれてる現状にどうしたいか、どうしてほしいかとまさに答えを下さっていると判断し其の方に添った援助、声掛けすることで自己決定につながるよう関わっています。	管理者は、利用者一人ひとりが誇りと自信を持って主体的に日常を過ごせることを大切にしています。職員は日々のケアの中で利用者の言動から思いを探り、ケース検討会で利用者へ合った適切なケアや言葉かけについて確認し合い、実践に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段から会話が出来る空間を大事にしています。お茶等を飲みながらの何気ない会話の中から本人の思い、置かれてる状況をキャッチするようにしています。行動に入る前に説明し納得して頂いてから行動に移しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎朝のコーヒータイム時等に今日はいつもの発語が少ないとか表情が冴えないな落ち着かなくて動き回ってるな等々の状況から一人一人の利用者の言動を観察し外の空気を吸いに行こうと声かけて場面を変える対応等してします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の好みを観察し理解しており其の方に添った支援をしています。沢山着込んでる方に、やみくもに声をかけても『これでいいんです』となかなか応じてくれない時など、暑くないとか声をかけるなど本人がどうしたら気持ちよく応じて下さるかその方に合った声かけをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べる事は、一番大事であると捉えています。3度の食事は勿論、おやつ時も全員が揃うまで待ち、一緒に頂いています。肉はダメ、コーヒーは飲まないとか言っていた方がいつの間にかみんなと一緒に食べてる。空腹だから食べれるというものではなく、心身共に安定した環境を作るのも私たちの仕事であると考えます。『みんなで食べると美味しいね』とは利用者の言葉です。	食事の配膳や後片付けを利用者と職員と一緒にいき、家庭でのように、和やかにテーブルを囲んで食事をしていきます。利用者の希望を聞き、外食に行ったり、出前をとったり、梅酒作りやケーキのデコレーションを楽しんだりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	茶碗を持つのも重い、箸でつまんで口に入れるのも面倒になり最後は手づかみで食べている方には、食べやすいように少量ずつ主食、副食をのせたワンプレート皿で提供しています。また軽くて持ちやすい小ぶりの茶碗を使う事で食べ易い工夫をしています。水分が取れない方には、食事前がいいのか、温かいお茶がいいのか冷たい方がいいのか等々毎食時、最低2杯は飲めるように援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	生命を維持していくための入り口である口腔ケアが一番大切であると考えます。半年以上の入院を余儀なくされ入所された方の口腔ケアは皆無の状態です。歯茎はぶよぶよに赤く腫れ食べ物を入れても痛い、噛めず食べれずの状態です。歯のブラッシングでのケアをするしかないとの助言から実践し今では、何でも食べれるぐらいに回復しています。そのことからいかに毎食後の口腔ケアの必要性を実感しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	多少漏れがあっても安易にオムツをせず、その方の尊厳は守るを実践しています。汚れたので更衣の援助に強い拒否がある場合は、その時が来るまで待ちます。それを実践するうちに自らトイレは？と聞くようになり間に合わなくて汚れても『ごめんね、これ脱ぐの』と素直に聞いて下さり改めて待つことの大切さを実感した出来事でした。	排泄の状況を、チェック表やケース記録に記入して排泄リズムの把握に努めています。個々の状況をミーティングで共有し、職員間で同じ対応ができるようにしています。本人の気持ちを尊重して声かけを行い、自らの意志でトイレに行けるようになった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	落ち着きがない、食欲がない、イライラしているとまずは、便は出てるかと確認します。高齢になると踏ん張れなくなり下剤を使用せざるを得ない方も中にはいられます。下剤を併用しながら水分を沢山摂る、毎日のラジオ体操と散歩、風船パレー等々が動くそして参加できる場面を作っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	日々変化していく利用者どこに援助が必要か一人一人を見極め本人のペースに合わせた入浴を楽しんで頂いています。浴室に案内しても物が散乱しているとそちらの方に意識がいき入浴に繋がらず3回目ようやく入浴して下さる方もいてその方のタイミングの合わせ方の難しさを感じています。	午前中は体操や散歩などで身体を動かして、昼食後、ゆったりくつろいでから入浴してもらっています。利用者本位の生活パターンを大切に、個々の希望や体調に応じて週3～5回入浴しています。気持ち良く入浴をしてもらうよう環境整備にも配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝起きるのが苦手な利用者は、強引に起こすと大暴れをして本人も不機嫌になり、こちらと一緒に食事が出来なくてイライラします。そこでセンサーを設置し本人が起きたらトイレをすまし2階に案内しリビングで過ごしてもらいます。すべて本人の意思ですので穏やかです。どこで手を出すか見極めた対応をします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ケースの中に使用している薬の目的や副作用等を明記しておりいつでも確認できる体制になっています。定期の受診時の変化、薬の変更等は、日誌に記録し全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員は利用者一人一人の出来る事探しから始まりそこからそれぞれに役割を担当してもらい、それを『役割担当表』に記載することで利用者に確認してもらっています。役割があることで生活に張りりと自信を持っていただけるような支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	皆さん外に行くことは大好きです。玄関先ですぐに『空気が美味しいね』と言う感性にはびっくりです。駐車場にベンチを準備し、全員が揃うのを待っています。手を繋ぐ方、車いすを押して下さる方等々とみんなで協力して全員で散歩に行けるように援助しています。	天気の良い日は散歩や近隣のスーパーマーケットに買い物に出かけるなどして外気浴を楽しんでいます。ぶどう狩り、花火大会、紅葉狩りなど、少し遠出もしています。入居者の「また、行きたい」の気持ちを大切に支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月2千円の小遣いを預かり其中で歯磨き粉、湯のみ茶碗等の小物を必要に応じて自分で好きなものを選んで購入できるように支援しています。紅葉狩り、お祭り時も、個人でお金を持ちたいものを選んで自分で購入できる支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの電話かけたいとの希望に対しては☎番号を渡し押す等の援助をし話せる場面を支援しています。息子や娘或いは知人からの電話も可能なら話せるような援助をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関等に季節の花を飾ったり季節に添った図案を用意し塗り絵等を楽しみそれをリビングの壁に貼ったりする事で季節を感じてもらえる工夫をしています。ソファにカバーをかけクッションを置いたりと温かな居心地の良い空間づくりを心がけています。	リビングでは、ソファに並んで座って談笑したり、職員と一緒にドリルをしたり、洗濯物を干している人や掃き掃除をしている人もいて、それぞれが思い思いに過ごしています。入居者と職員の楽しそうな話し声や笑い声が絶えず聞こえています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2階の共有空間（リビング）で計算問題をやる方、塗り絵をする方、本の読む方々自分でやりたい物を選んで取組んでいられます。計算が終わると『採点して』と出来具合を確認したりと利用者同士和気藹々と過ごせる居場所作りとを工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた寝具、筆筒、ソファ等を持ち込み寝る前は本を読む習慣の方は本を持参、壁には動物の写真を貼ったり可愛いぬいぐるみを置いたり、見慣れた物に囲まれたその人らしい居室になっています。散歩時には、道端に咲いている可愛い花を摘んできて部屋に飾ってる方もいます。	家具や日用品など、自由に持ち込めるようになっています。動線や安全性に留意して入居者と相談しながら家具の設置や絵画などの飾りつけを行い、安心して過ごせるようにしています。シーツ交換や衣類整理は本人のやり方を尊重しながら支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所が分からない利用者トイレマークを入れ表示し分かりやすいように工夫したり段差のある所には、目立つ色のテープングで知らせたりと安全性と本人の機能を大事にした関わりをしています。		

令和元年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム えがお

作成日： 令和2年4月29日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	9月の台風19号の水害で『避難指示』が発令され避難してる。その中での課題点として①職員の配置②移動方法③雨具④食事等の準備不足等々、全体的に詰めの甘さが表面化した。	万全に準備することで、慌てずに避難できるようにする。	①河川氾濫想定訓練時等に①～④について一つ一つ検討し文章化する事。必要物品は購入し一括して保管し出し入れしやすいようにする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月